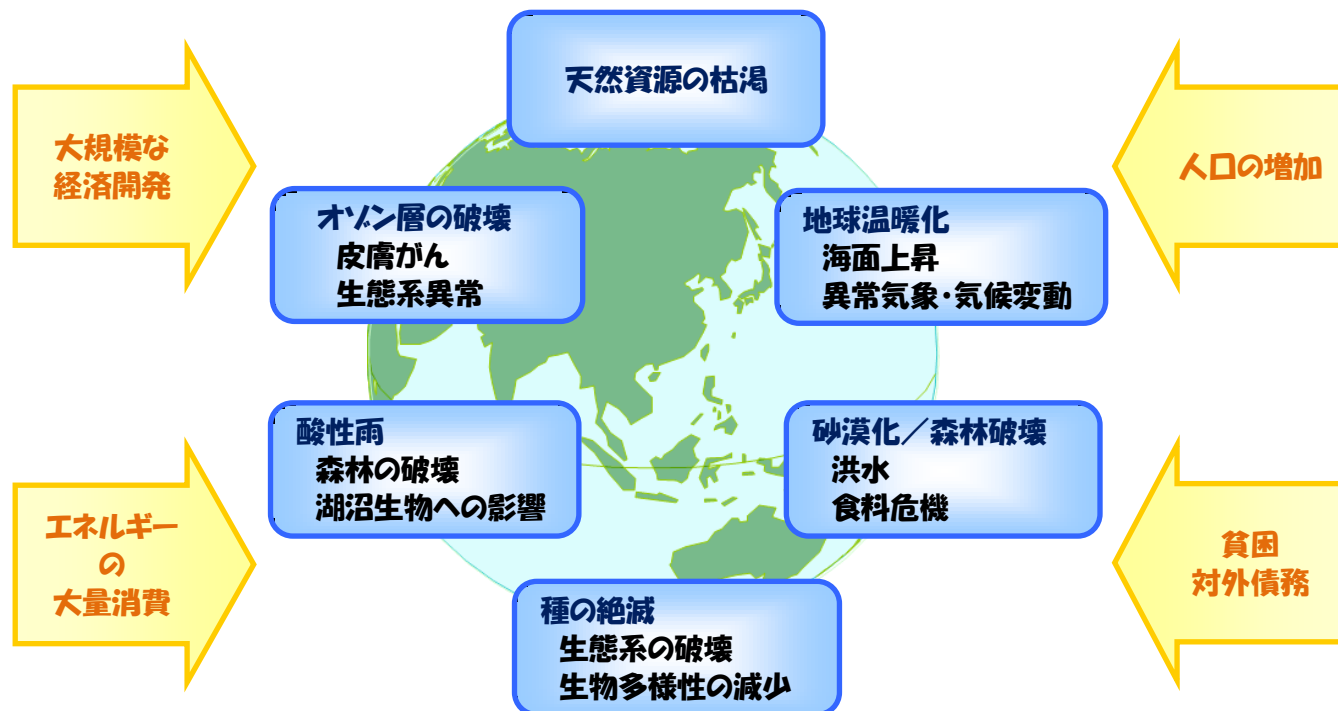


2015年 9月
AGCコーテック株式会社
技術本部 CSR室
TEL:03-5217-5104

今回は、**EMSの必要性とISO14001(JIS Q 14001)用語**について、おさらいします。

◆ EMSの必要性

1970年代以降、広域にわたる「地球規模の環境問題」が顕著になってきたと言われています。以下に、今日の主な環境問題と原因についてまとめました。



- ※ **天然資源の枯渇** … 産業革命以降、人類はあらゆる資源を搾り取って活用することで産業を成り立たせてきたが、**その資源も近い将来枯渇する**といわれている。
資源の再生利用を積極的に進めようとする動きがある。
- ※ **地球温暖化** … 地球温暖化の影響要因としては、「人為的な**温室効果ガスの放出**、なかでも二酸化炭素やメタンの影響が大きい」とされる。科学的知見によれば、2100年には平均気温が最良推定値で1.8～4.0℃上昇するとされている。
- ※ **オゾン層の破壊** … オゾン層は、太陽からの有害な紫外線の多くを吸収し、地上の生態系を保護する役割を果たしているが、紫外線により**フロン類**(CFC、HCFC等)から遊離した塩素によって**破壊される**。
(現在では、フロンガスなどの排出規制の効果で、回復傾向にあると言われている。)

上記のような状況を踏まえ、「**持続的発展が可能な社会**」、「**循環型社会**」を目指して、環境問題の改善に向けていろいろな手法が検討され、実行に移されています。

EMS(環境マネジメントシステム)は、ISO14001規格を活用し、その目標などを通して**環境改善が達成できる仕組み**のことを言います。

◆ ISO14001(JIS Q 14001) 用語 について

青文字は JIS Q 14001:2004 に記載されている文言そのままです。()内は規格項目番号を指しています。

1. 環境マネジメントシステム (environmental management system, EMS)

組織のマネジメントシステムの一部で、環境方針を策定し、実施し、環境側面を管理するために用いられるもの。(JIS Q 14001:2004 3.8)

P(計画)⇒D(実施)⇒C(点検)⇒A(改善)のサイクルで回して管理し、継続的に改善することによって環境マネジメントシステムそのものをレベルアップさせる。

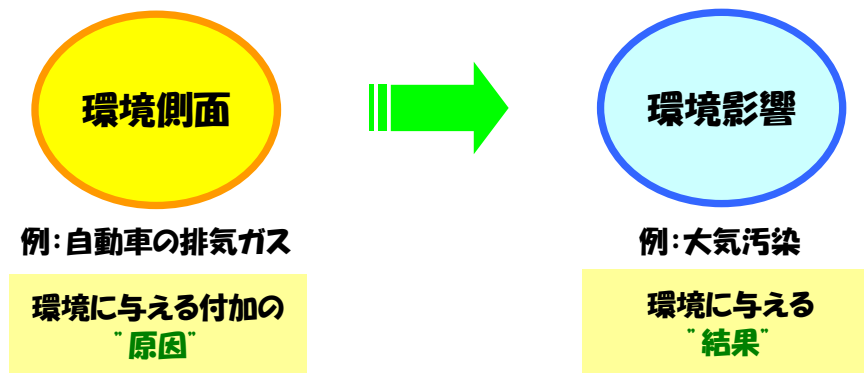
2. 環境側面 (environmental aspect)

環境と相互に作用する可能性のある、組織の活動又は製品又はサービスの要素。(JIS Q 14001:2004 3.6)

組織の活動によって地球環境に与える負荷の原因のこと。なお、「著しい環境側面」とは、組織の活動が環境に与える負荷のうち、特に大きなもの、重要なものをいう。

3. 環境影響 (environmental impact)

有害か有益かを問わず、全体的に又は部分的に組織の環境側面から生じる、環境に対するあらゆる変化。(JIS Q 14001:2004 3.7)



4. 環境パフォーマンス (environmental performance)

組織の環境側面についてのその組織のマネジメントの測定可能な結果。(JIS Q 14001:2004 3.10)

EMSなどによって、環境負荷低減活動でどのくらいの成果を得たかということであり、測定が可能なもののこと。

〈例〉 廃棄物発生量、エネルギー使用量、用紙の使用量(購入量) 等

5. 環境方針 (environmental policy)

トップマネジメントによって正式に表明された、環境パフォーマンスに関する組織の全体的な意図及び方向付け。(JIS Q 14001:2004 3.11)

AGCコーテック株式会社 環境方針

環境方針	1. 私たちは、AGCグループの環境基本方針を踏まえ、地域生活環境の向上、地球環境の保全、環境との調和を事業活動の大前提といたします。
	2. 私たちは、環境保全に配慮し、継続的な環境負荷削減活動の推進と環境汚染の予防に努めます。
	3. 私たちは、これらの活動を通じて社会との、お客様との信頼関係をより強固なものにいたします。

6. 環境目的 (environmental objective)

組織が達成を目指して自ら設定する、環境方針と整合する全般的な環境の到達点。
(JIS Q 14001:2004 3.9)

7. 環境目標 (environmental target)

環境目的から導かれ、その目的を達成するために目的に合わせて設定される詳細なパフォーマンス要求事項で、組織又はその一部に適用されるもの。(JIS Q 14001:2004 3.12)

その他、JIS Q 14001に記載されている用語以外で、環境に関連する用語をご紹介します。

8. グリーン購入

製品やサービスを購入する前に必要性を熟考し、環境負荷ができるだけ小さいものを優先して購入すること。消費者の観点でグリーン購入といい、生産者の観点ではグリーン調達という。

9. ゼロ・エミッション

主に、工場から出る排水、排ガス、廃棄物などの汚染物を減らし、製品をリサイクルすることで、全体として汚染物の排出をゼロにする取り組み。

10. ライフサイクルアセスメント (Life Cycle Assessment:LCA)

製品の一生における環境負荷を評価する手法。製造、輸送、販売、使用、廃棄、再利用まですべての段階での環境負荷を総合して評価する。

11. 環境ラベル

環境負荷を軽減した製品であることを示す第三者による認証。日本環境協会のエコ・マーク、古紙再生促進センターのグリーン・マーク、省エネルギーセンターの国際エネルギー・スターなどがある。エコ・ラベルとも呼ばれる。



エコ・マーク



グリーン・マーク



国際エネルギー・スター

12. 3R

- ① Reduce リデュース(ごみの発生抑制)
 - ② Reuse リユース(再使用)
 - ③ Recycle リサイクル(ごみの再生利用)
- の優先順位で廃棄物の削減に努めるのがよいという考え方。



3Rキャンペーンマーク

13. SDS (Safety Data Sheet)

安全データシートのこと。

日本では、毒物及び劇物取締法に指定されている毒物劇物、労働安全衛生法で指定された通知対象物、PRTR法の指定化学物質を指定の割合以上含有する製品を事業者間で譲渡・提供するときに、**SDSの提供が義務化**されている。SDSには以下の情報が記載されている。

1. 製品及び会社情報 - 製品名称、SDSを提供する事業者の名称、住所及び連絡先
2. 危険有害性の要約 - GHS対応の絵表示や注意喚起語を使用
3. 組成、成分情報 - 含有する指定化学物質の名称、指定化学物質の種別、含有率
4. 応急措置
5. 火災時の措置
6. 漏出時の措置
7. 取扱い及び保管上の注意
8. 暴露防止及び人に対する保護措置
9. 物理的及び化学的性質
10. 安定性及び反応性
11. 有害性情報
12. 環境影響情報
13. 廃棄上の注意
14. 輸送上の注意
15. 適用法令
16. その他の情報

14. PRTR (Pollutant Release and Transfer Register)

どのような化学物質が、どこから、どのくらい、環境(大気・水域・土壌など)中へ排出されているか(排出量)、廃棄物などとして移動しているか(移動量)を把握し、集計・公表する仕組み。

日本のPRTRにおいては、政令で指定された第一種指定化学物質を年間1トン(特定第一種指定化学物質については0.5トン)以上取り扱う事業所で、業種や従業員数などの要件に合致するものについて、その事業所を持つ事業者は、指定の物質の排出量・移動量を届け出ることが義務付けられている。

以上